



# 沖縄国際大学 FD通信

沖縄国際大学 教務部長 2012年3月26日発行

## 1. ワーク・ショップ「教育支援者の「志」が入った引継書をつくろう！」開催しました。

2011年度に教育支援者（TA・SA）として採用された学生に対する事後研修会が3月7日（水）にワークショップ形式で実施されました。今回のワークショップは、次年度の教育支援者へ「思い、魂＝志」を伝えるための「場」づくりをコンセプトとして、「業務引継書」を作成することを目標としました。

今回行った研修内容は、次のとおりです。

### 【ワークショップ】

- Step 1：グループをつくろう
- Step 2：「志」を語ろう
- Step 3：共通の「志」を探ろう
- Step 4：各グループの「志」を聴こう

次年度採用のTA・SAに対する期待を込めて、各グループから生まれた、引き継いで欲しいフレーズは次のとおりです。

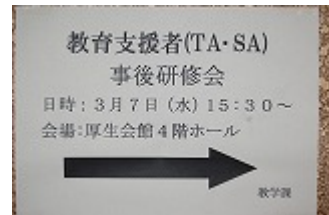
- 1) 『相互作用のある生きた授業を作れる』TA・SA。
- 2) 『関わり合いを大切にする、また関わり合いを作り出せる』TA・SA
- 3) 『コミュニケーションのとれる』TA・SA
- 4) 『縁の下の力持ちという役割を担う』TA・SA
- 5) 『30%くらい学生に方向性を示せる』TA・SA
- 6) 『学生と共に歩む』TA・SA
- 7) 『苦しみを喜びに変える』TA・SA
- 8) 『自分も成長できる』TA・SA

また、主として次のようなコトバが、次年度のTA・SAへ引き継ぐ申し送り事項として挙げられました。

- 1) 全部手取足取り教えない。
- 2) 自信と誇りを持って臨んでほしい。
- 3) 自分自身が経験したことを忘れず
- 4) 嫌な気持ちになりたくなかったら、名札は常に着用
- 5) 積極的にモデルを示す

ワークショップ終了後、感謝の意を込めて、業務修了証を授与しました。

「志」の発表で、教育支援者（TA・SA）から溢れだしたコトバは、心に突き刺さるコトバが多く紡ぎ出され、中でも、『学生たちが主体的に学び、学ぶことの面白さを実感し、授業内容に興味・関心を持てるのであれば、本来、TA・SAは必要ないのです』というフレーズに、ファシリテーターを務めた藤波潔（総合文化学部・准教授）および教学課職員は大きく頷いていました。



## 2. Community Market In Okiu ～つながりの”わ”～ －「相談援助実習指導」(岩田直子 准教授)の取組紹介－

岩田直子先生の「相談援助実習指導」のゼミ学生 16 名主催による企画が、「Community Market In Okiu ～つながりの”わ”～」と称して、1 月 17 日(火)の昼食時間、沖国大の 5 号館ロビーにて開催されました。

「つながりの”わ”」をテーマに、同年代の学生に障がい者の方々の生活や取り組みを知ってもらうこと、興味を持ってもらうこと、出会いと交流の場をつくることを目的として、パンや菓子類、小物、石けんなど、社会福祉施設において利用者がつくった物品の販売が行われました。

この企画は、実習での経験を元に「相談援助実習指導」という講義の枠を越えて、学生が主体的に考え行動して開催されました。後日、実行委員長の蒲生侑希さんと大湾麻衣さん(ともに人間福祉学科・3 年次)へインタビューを行いました。(取材:古堅裕之・教学課/学生スタッフ)



### Q1 企画を立ち上げたきっかけを教えてください。

蒲生:「夏休みに行った実習先での経験から、たくさんの人に障がい者の方のことを理解してほしい、知ってほしいと思ったことが企画を立ち上げたきっかけです。何か形になるものを作ろうということで、授業とは別でワークショップを行って、その中で今回の企画をやることが決まりました。企画は岩田ゼミ 16 名が中心となって取り組みました。」

### Q2 企画をやってみての感想を聞かせて下さい。

蒲生:「予想以上に企画が盛り上がり驚きました。自分が行った実習先だけでなく、ゼミ生が行った実習先とも関わることが出来て良かったです。一番私たちがつながりをもてたと思います。」

大湾:「ここまで出来るとは思いませんでした。会場に来て下さった方が自然と笑顔になれる雰囲気を作れたことが嬉しかったです。」



### Q3 今回が第 1 回ということですが、第 2 回、3 回と行う予定はありますか。

大湾:「次回行うときは、私たちはサポートする立場になって参加したいと思っています。後輩たちが後を受け継いでほしいですね。でも、私たちと同じようなことを行うのではなく、後輩が自分たちなりに実習で感じたことを形にしてほしいです。」



### Q4 企画を立ち上げた行動力がすごいと思いました。どうしてそのような行動力があるんですか。

蒲生:「思ったことを言葉にすることが大切だと思います。思いついても一人では出来ませんでした。大湾さんに話をし、先生に話をし、ゼミ生に話をし、というように話をしていくうちにだんだんと実現していきました。また、私の中で、ゼミで企画を行うことが出来たというのが大きかったです。」



### Q5「相談援助実習指導」での SA のサポートについて受講生としてどう感じたか教えてください。

大湾:「日誌の書き方や事前学習のやり方など、実習に向けて何をどのようにしたらいいのかわからないという状態だったので、経験者からのアドバイスは心強かったです。」



### 【後日談】

岩田直子准教授は、本取組を中心に据えた教育プログラムの開発を目指して、「障害者福祉施設において実施される地域連携を実践的に学ぶプログラム」をテーマに、「沖縄国際大学 2012 年度 FD 支援プログラム」に応募し、その後、採択されました。

「福祉相談援助実習指導」の授業の中で、社会福祉実習を経た学生の経験を最大限に活かすため、障害者の社会的バリアをなくすための事業を企画し、実施する能力を養う教育プログラムを開発するために、本取組の更なる進化を目指しています。

また、今回インタビューに協力していただいた蒲生侑希さんと大湾麻衣さんは、2012 年度から教育支援者(SA)として採用され、蒲生さんは「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」、大湾さんは「相談援助実習指導」の科目で受講学生をサポートします。今回の経験が SA の活動を通じて後輩へ継承され、「学びのつながりの”わ”」を創出することを目指しています。また、「学びのつながりの”わ”」によって、福祉を学ぶ学生の主体的な学びを促進することが期待されています。

